

2016年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	法学部
評価基準 6	学生支援
点検・評価項目(2)	6-2 学生への修学支援は適切に行われているか。
評価の視点	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

6-2	<p><留年者および休・退学者の状況と対処法></p> <p>留年者および休・退学者は毎年、一定数いる。留年者については、本人や保護者宛に文書を送付した後、年度初めに個別面談を行って事情を確認し、対処法についてのアドバイスを与えている。休・退学者については、必要な場合には学科主任が個別面談で助言するなどの対応を行っている。(B6-39 d2-表 36、37、38)。</p> <p>また、成績不良者に対する措置としては、出席状態を必修科目の担当者が定期的にチェックし、欠席が多い学生には文書を送付し、面談を行っている (B6-35)。</p> <p>さらに、政治学科では、新入生を対象として1泊2日のオリエンテーション合宿(フレッシュマン・セミナー)を行い、スムーズに修学できるような支援により、留年者や休・退学者を減らす取り組みを行っている。</p> <p><補習・補充教育に関する支援体制とその実施></p> <p>法律学科では、2014年度までは、1年次必修科目「現代社会と法」で、前期末試験の成績がふるわなかった学生に対して再試験を実施してきた。2015年度からは、学期の途中に、授業の予習・復習が不十分な学生に対して、レポートの提出を求めることで学習を促している。政治学科では、補習や補充教育は特に実施していない。オフィスアワーは、板橋・東松山の両校舎で全教員が実施している (A6-1、B6-31)。2016年度も前年度と同様の体制を敷いている。実態調査では、学生の相談数は授業前後などにおけるそれと比べて少ないことが示された。学生はオフィスアワー以外の時間の方が教員と親しく相談できると捉えているようで、本学部教員はそのような学生のニーズに充分応えている。</p>
-----	--

【効果が上がっている事項】

6-2	2015年度に法律学科が行った「現代社会と法」のレポートにより、前期で脱落しそうな学生を捕捉し、単位取得可能な水準にまで学力をつけさせた例があった。
-----	--

【改善すべき事項】

6-2	本学部の学生はオフィスアワーよりも授業前後の相談を好む傾向があるが、進路相談などのセンシティブな助言をすべき場合を考えて、オフィスアワーの利用という選択肢を学生に周知すべきである。
-----	--

本項目の根拠資料(データ類、裏付けとなる資料)

<p>A6-1 大東文化大学・大学院シラバス (CD-R)</p> <p>大東文化大学ホームページ (Web シラバス)</p> <p>http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html <既出>A4-2-16</p> <p>B6-31 法学部オフィスアワー日程表(板橋校舎・東松山校舎 2015年度)</p> <p>B6-35 平成27年度第9回法学部教授会議事録 他</p> <p>B6-39 大学データ集 <既出>B1-22</p>
<p>〔追加資料〕</p> <p>法学部オフィスアワー日程表(板橋校舎・東松山校舎 2016年度)</p> <p>法学部政治学科 2016フレッシュマンセミナー ガイド</p>

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S:完全に達成」「A:概ね達成」「B:やや不十分」「C:不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014~2018)	6-2 退学者数、留年者数の減少	退学者数、留年者数 (中期期間の5年間の退学者、留年者のそれぞれの数の平均値がその前の5年間の平均値を下回ること)			C		
14年度 目標	6-2 オフィスアワーの実施状況の把握。	指標は相談の実施回数とその内容とする。教授会で実施数と相談の概要について報告し、翌年度以降の改善に向けた足	S				

		がかりとする。						
	6-2 ゼミを履修しない学生への対応を充実させる(例として、多くの3年生が履修する科目において、毎月1回程度、ゼミを履修していない学生を対象とした修学・進路等の相談時間を設けるなど)。	相談の実施回数とその内容とする。教授会で実施数と相談の概要について報告し、翌年度以降の改善に向けた足がかりとする。	→	A				
15年度 目標	6-2 オフィスアワーの実施状況の把握	指標は相談の実施回数とその内容とする。教授会で実施数と相談の概要について報告し、翌年度以降の改善に向けた足がかりとする。	→	S				
	6-2 カリキュラム変更に伴う、1年生向け補習・補充教育の実施	「現代社会と法」において、該当学生に対してレポートを課したか。	→	S				
	6-2 フレッシュマン・セミナーへの参加数の増加	新入生への呼びかけを徹底したか。	→	S				
16年度 目標	6-2 オフィスアワーの実施状況の把握	指標は相談の実施回数とその内容とする。教授会で実施数と相談の概要について報告し、翌年度以降の改善に向けた足がかりとする。	→		S			
	6-2 フレッシュマン・セミナーの分科会における教員からのガイダンス内容の充実	6 つに分かれて実施される分科会において、教員からのガイダンス内容を統一し、4年間の学修への適切なスタートが切れるように学生を導いたか。	→		S			